

大和野菜「味間いも」の振興

要約

昭和初期から田原本町味間周辺地域で栽培され維持されてきた「味間いも」は、平成26年に「大和の伝統野菜」として認定された。生産・販売とも一体的な活動が行われていなかったが、生産者が一丸となって取り組む生産者組織が設立した。また、統一袋での販売、加工品開発がブランド力向上の一つの手段として取り組まれた。

現状(背景)と課題

- ・生産者の確保と栽培面積(40a)の拡大
- ・優良種いもの確保
- ・認知度の向上
- ・加工品の開発



目標

- ・栽培面積 70a
- ・加工品開発 1品

実績

- ・栽培面積 57a
- ・加工品開発 1品

活動内容

- ・指導対象：「味間いも」生産者10戸
- ・生産者組織の設立に向けて、生産者への啓発活動や関係機関との調整を繰り返し、協議する場をコーディネートした。
- ・ブランド化に向けた商標登録に関し、知的財産アドバイザーとの相談会を開催した。
- ・優良種いもの増殖法の確立に向けて、2つの方法を試した。
- ・加工品開発に向けて、加工技術の指導や販売形態に関する商品開発支援を行った。

成果

- ・栽培面積を57aに増加させることができた。
- ・「田原本町味間いも生産者の会」が設立し、本格的な組織活動が始動した。
- ・産地のブランド強化への取り組みに対する意識が向上し統一袋での販売が始まった。
- ・優良種いもの安定確保に向けた苗増殖技術2種類を試行し、いずれの手法も実用導入が可能であることを確認した。
- ・加工品として「味間いもコロッケ」を開発することができた。



生産者組織の設立



統一袋



「味間いも」の育苗

中部農林振興事務所農林普及課
担当：農産物ブランド推進係 森本美奈
チャレンジ品目支援事業(大和野菜ブランド
向上事業)

普及活動のポイント

- ・生産者や役場、JAといった関係機関と密な情報交換や検討を重ねながら取り組んだ。その結果、意思統一をはかることができ、現場の課題抽出にも有効であった。また、関係機関の役割分担も明確にすることができ、効率的な活動に取り組めた。

対象の変化

- ・「田原本町味間いも生産者の会」を設立し、本格的な組織活動が始動した。
- ・産地のブランド強化への取り組みに対する意識が向上し、統一袋での販売が始まった。

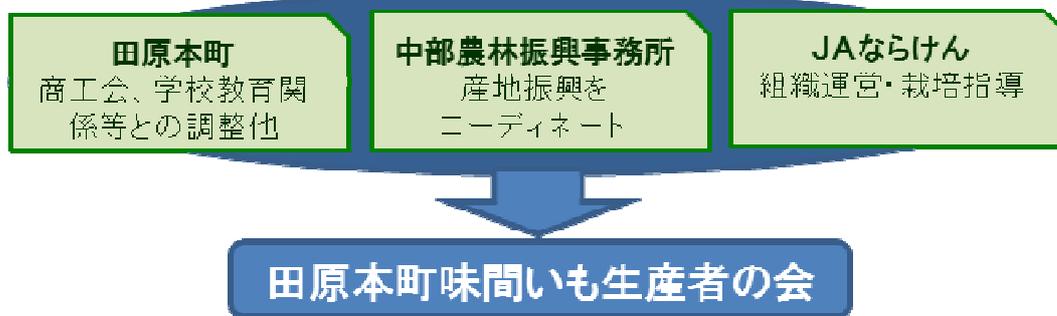
対象者からのコメント

- ・生産者組織が設立し、統一袋での販売に取り組むことができた。今後も栽培、販売の課題に取り組み、「味間いも」振興の取り組みを盛り上げていきたい。

これからの活動ビジョン

- ・さらなる面積拡大と新たな生産者の確保を図る。
- ・円滑に組織活動が運営されるよう支援する。
- ・ブランド強化に向けた支援を行う。
- ・優良種いもの安定供給体制を整備する。
- ・新たな加工品開発に向けて取り組む。

活動体制



用語解説

大和の伝統野菜

戦前から奈良県内で生産が確認されている品目。地域の歴史・文化を受け継いだ独特の栽培方法等により「味、香り、形態、来歴」などに特徴をもつもの。

優良種いも

味間いもの場合、乾腐病による病害対策が課題となっている。病原菌に感染していない健全な種いもを優良種いもとしている。